

「協働のためのルールブック」作成に向けて

1. 目的

「あま市みんなでまちづくり市民活動・協働のガイドブック」において、市民活動や市民協働について案内してきましたが、市民の価値観が多種多様化する中で、その複雑化したニーズに対する公共サービスを行政だけでは提供することが難しくなってきました。

一生涯住み続けたい「あま市」を築いていくには、市民一人ひとりがまちづくりの主役として、まちの課題に自発的に取り組み、その知恵や力を生かし合うために、それぞれが手をつなぎあえる環境をつくらなければなりません。また、まちづくりを担う市民、地域組織、市民活動団体及び市が対等な立場で助け合い、信頼関係を築くため、パートナーシップを組み、連携し、協働していくことが大切です。

これから、より一層、市民協働の事業を実践していくには、市民、地域組織、市民活動団体及び市が、それぞれの責任と役割を明確にし、協働によるまちづくりを推進していく手引書となる「協働のためのルールブック」を作成していく必要があります。

2. 目標

市民、市民活動団体、事業者及び市との協働の推進

3. 協働における現状

(1) あま市市民活動団体登録一覧（別紙「参考資料1」）

市民活動団体86団体、サロン12団体、老人クラブ2団体、コミュニティ協議会14団体

(2) 市における協働形態一覧（別紙「参考資料2」）

関係部署へ活動内容等について聞き取り

4. それぞれの現状や課題

(1) 市民活動センターから見た現状

- ①市民活動団体等が市と協働していくという考えがない。
- ②市民活動団体等が市の事業内容を把握していない。
- ③協働の種類（委託・共催・補助・後援など）について、メリット・デメリットの違いがわからない。

(2) 市側の現状

- ①協働に関して、若手職員への研修は行っているが全ての職員に浸透していない。
- ②各職員が市民活動団体等との協働の必要性及び重要性の認識が低い。
- ③市民活動団体等がどのような活動内容を行っているか把握していない。

(3) 市民活動団体等の現状（今はどうなっているか）

グループワーク

(4) 課題（目標と現状の差を埋めるために）

グループワーク

5. 先進自治体のルールブックについて（別紙「参考資料3」）

6. その他